

# COVID-19 の航空への影響

白井 昭彦

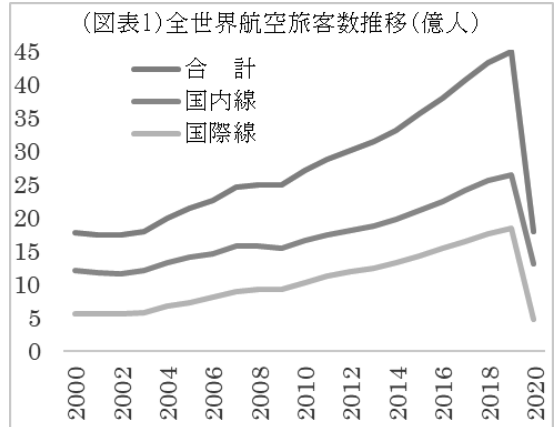
## 1. 序論

グローバル化・ボーダレス化が進んでいる現代において、航空業界は新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の影響を多大に受けることとなった。

2020年1月30日世界保健機構（WHO）はCOVID-19の「国際的に懸念される公衆衛生上の緊急事態」を宣言したが、その前から数カ国で中国間の便を運休・減便や入国制限・査証効力停止は始まっていた。そして、同年2月には中国間の旅客便の運休・停止が拡大し、3月11日WHOはCOVID-19を染拡大状況や重症度から「世界的なパンデミック」と表明した。同月30日に、中国民用航空局は中国離発着の国内線・国際線の路線・便数・搭乗制限を行う通知を発出した。COVID-19の各国への拡大とともに各国での国境の閉鎖も始まり、4月末には世界の累計感染者数239万人、累計死者数は23万人となり、5月には185の国々で国境が全面的または部分的に閉ざされ、6月には米国運輸省は米国離発着の中国の航空会社の便数制限を行った。12月末には世界の累計感染者数は8266万人にも及び、死者数も187万人となった。

その結果、国際観光到着数は2019年の14.7億人から2020年には4.0億人と対前年-63.6%に落ち込み、国際観光収入も1兆4660億米ドルから5360億米ドルと対前年-72.8%にまで減収した。

航空旅客数は2008～09年の世界金融危機以降伸び続け、2019年には44.9億人となったが、2020年は17.9億人と対前年-27億人(-60.2%)と大幅減少した。国際線旅客数は18.5億人から4.7億人と-13.8億人(-74.4%)、国内線旅客数は26.4億人から13.1億人と-13.2億人(-50.2%)となった。(図表1)



(出典：IEA・ICAO)

貨物取扱量は国際線が3773万トン(-10.4%)、国内線が1980万トン(-5.4%)であった。

## 2. 世界

### 1) 国際線

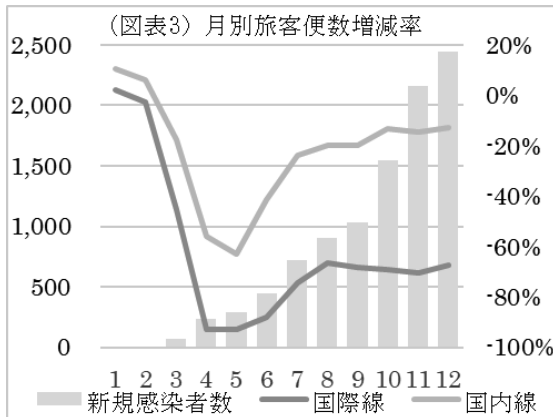
国際線旅客便数は、世界計で2019年1308.6万便から2020年には485.2万便と、-823.4万便(-62.9%)の減便となった。対前年最大減便率はアジア・太平洋地区の-71.0%となり、最小減便率は中南米の-54.1%だった。最大減便数は欧州で-389.7万便、次いでアジア・太平洋が-207.1万便となり、この2地域で世界の減便数の72.5%を占めた。(図表2)

(図表2) 国際線旅客便数(万便)

地域	2019年	2020年	増減率
欧州	629.2	239.5	-61.9%
アジア・太平洋	291.9	84.7	-71.0%
北米	130.4	54.3	-58.3%
中南米	108.6	49.9	-54.1%
中東	87.8	32.3	-63.3%
アフリカ	60.7	24.5	-59.7%
世界計	1,308.6	485.2	-62.9%

(出典：ICAO)

国際線旅客便数は、2月にアジア・太平洋で対前年同月-23.2%と減便が始まったが、世界計では-2.9%の減便となった。3月には世界規模での減便が拡大し-45.6%の減便となり、4月・5月が-93.0%とピークとなった。6月から徐々に減便が回復し始め、7月以降は-70%前後で推移し、12月には-62.9%まで回復した。(図表3)



(出典：ICAO・WHO)

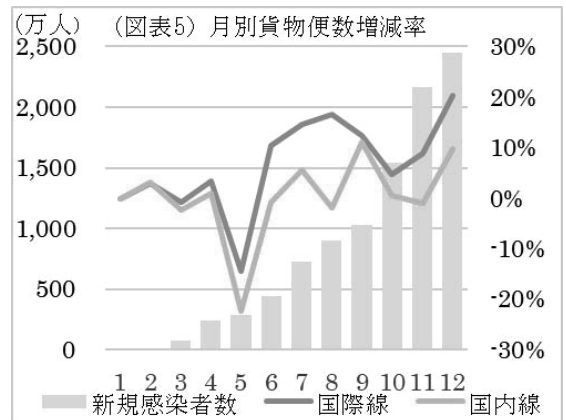
国際線貨物便数は2019年394.8万便から2020年は420.7万便と+2.6万便(+6.5%)の増便となった。対前年最大増加率はアジア・太平洋の+9.2%で、最大減少率はアフリカの-20.7%で世界で唯一減便地域となった。最大増便数はアジア・太平洋で+1.1万便となった。(図表4) 最大増便国は貨物取扱量が対前年-5%となった米国で+5,597便の増便、次いで韓国の+2,833便となった。最大減便国はオランダの-1,138便、次いでプエルトリコの-890便だった。中国は+2,582便、日本は+1,982便だった。

(図表4) 国際線貨物便数(万便)

地域	2019年	2020年	増減率
欧州	131.5	140.0	6.5%
アジア・太平洋	119.2	130.1	9.2%
北米	68.7	74.7	8.8%
中南米	42.5	43.9	3.2%
中東	24.0	24.9	3.7%
アフリカ	9.0	7.1	-20.7%
世界計	394.8	420.7	6.5%

(出典：ICAO)

国際線貨物便は5月が世界計で対前年同月-14.5%の減便となったが、6月以降は増便に転じ10月まで+10%台の増便となり、12月は+20.3%の増便となった。(図表5)



(出典：ICAO・WHO)

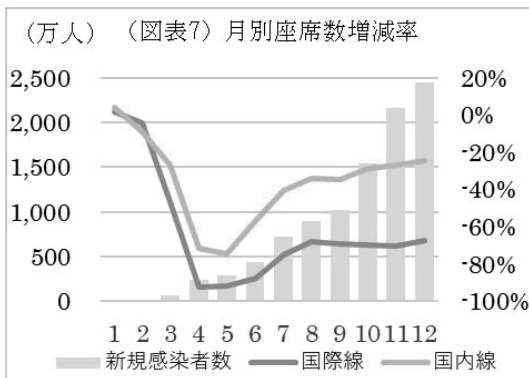
国際線旅客便座席数は、2019年は24.0億席が、2020年は8.8億席と-15.2億席(-63.2%)の減席となった。対前年最大減席率はアジア・太平洋で-69.2%となり、最小減席率は中南米の-56.6%となった。最大減席数は欧州で-6.7億席となり、欧州とアジア・太平洋の2地域で世界の減席数の74.2%を占めた(図表6)

(図表6) 地域別年間国際線座席数(億席)

地域	2019年	2020年	増減率
欧州	10.7	4.0	-62.5%
アジア・太平洋	6.4	2.0	-69.2%
北米	2.1	0.9	-57.5%
中南米	1.6	0.7	-56.6%
中東	2.0	0.8	-61.7%
アフリカ	1.2	0.5	-58.9%
世界計	24.0	8.8	-63.2%

(出典：ICAO)

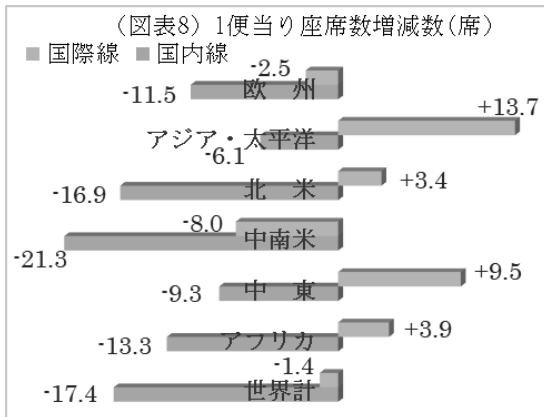
国際線座席数は1月の北米、2月のアジア・太平洋から減便となり、2月は対前年同月-4.3%、3月には-46.5%となった。4月がピークで-92.0%となり、徐々に回復していき、12月には-63.2%まで回復した。(図表7)



(出典：ICAO・WHO)

国際線1便当たり座席数は2019年183.3席から2020年は181.8席と1.4席の減席となった。最大増席数はアジア・太平洋で+13.7席となり、最大減席数は中南米で-8.0席となった。

(図表8) 特に対前年同月で、4月・5月は中南米以外で大幅増席となり、世界計で4月+26.0席、5月+27.8席の増席となった。



(出典：ICAO)

国際線旅客数は、全世界で2019年18.5億人から2020年4.7億人と-13.8億人(-74.4%)減少した。対前年最大減少率はアジア・太平洋で-79.6%、最小減少率は中南米で-68.2%となった。欧州では-6.2億人、アジア・太平洋では-4.0億人となり、この2地域で世界計の減少数の74.1%を占めた。(図表9)

国際線旅客数は、1月は世界計で対前年+4.2%となったが、北米と中東で減少した。2月にはアジア・太平洋で-33.6%、北米で-3.3%となり、世界計で-58.2%となった。4月にピークの-97.7%

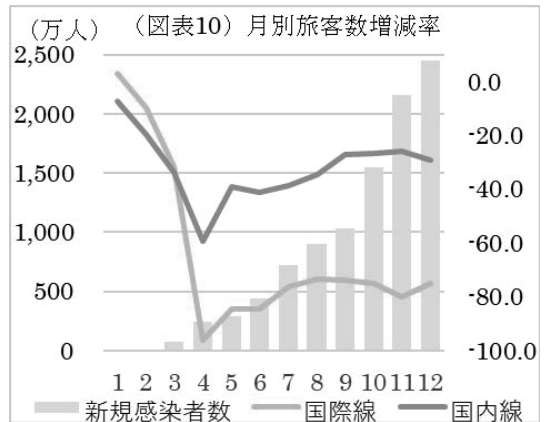
となり、6月まで-90%を超え、7月~11月は-80%台で推移し、12月には-70%台にまで回復した。

(図表10)

(図表9) 地域別年間国際線旅客数(億人)

地域	2019年	2020年	増減率
欧州	8.6	2.3	-73.0%
アジア・太平洋	5.0	1.0	-79.6%
北米	1.6	0.4	-73.2%
中南米	1.2	0.4	-68.2%
中東	1.5	0.4	-72.9%
アフリカ	0.7	0.2	-70.4%
世界計	18.5	4.7	-74.4%

(出典：ICAO)



(出典：ICAO・WHO)

国際線旅客収入は2019年3357.6億ドルから2020年856.2億ドルと、2501億ドル(-74.4%)減少した。

(図表11) 地域別年間国際線旅客収入(億ドル)

地域	2019年	2020年	増減率
欧州	1203.3	321.7	-73.3%
アジア・太平洋	1059.8	225.8	-78.7%
北米	425.4	110.8	-74.0%
中南米	238.2	74.6	-68.7%
中東	270.6	74.8	-72.4%
アフリカ	160.4	48.6	-69.7%
世界計	3357.6	856.2	-74.5%

(出典：ICAO)

最大減少率は、アジア・太平洋で-78.7%となった。欧州で-881.6億米ドル、アジア・太平洋で-8339.9億米ドルの減少となり、2地域で世界の減少の68.6%を占めた。(図表11)

## 2) 国内線

国内線旅客便数は、世界計で2019年3190.3万便から2020年には2456.7万便と-733.5万便(-23.0%)の減便となった。中南米が対前年最大減少率で-46.5%、最小減少率は北米で-14.5%となった。最大減便数はアジア・太平洋で-283.9万便、次いで北米の-246.9万便となり、この2地域で世界の減便数の72.4%を占めた。(図表12)

(図表12) 国内線旅客便数(万便)

地域	2019年	2020年	増減率
欧州	261.8	173.8	-33.6%
アジア・太平洋	978.3	694.4	-29.0%
北米	1,699.4	1,452.6	-14.5%
中南米	190.5	101.8	-46.5%
中東	26.9	15.2	-43.5%
アフリカ	33.4	18.9	-43.4%
世界計	3,190.3	2,456.7	-23.0%

(出典：ICAO)

国内線旅客便数も国際線と同様に対前年同月で2月は世界計では+5.9%だったが、アジア・太平洋の-27.4%の減便となった。3月には減便は世界規模となり、4月に-55.9%、5月には-62.9%となった。一番影響を受けたのは両月ともに-90%を越す減少率となった中東及びアフリカ、5月に-90%を超えた中南米となった。6月から徐々に回復し始め、10月以降は-10%台の減便となった。(図表3)

国内線貨物便数は、世界計で2019年58.68万便から58.78万便と、1,052便(+0.2%)増便となった。対前年最大増便率は中南米の+106.6%で、最大減少率はアジア・太平洋の-28.2%となった。最大増便数は北米の+1.2万便、最大減便数はアジア・太平洋の-1.4万便となった。(図表13)最大増便国は国内航空貨物取扱量が対前

年+9.8%となった米国の+17,014便、次いでメキシコの+2,499便となった。最大減便国は取扱量が-10.9%となった中国の-12,448便、次いで取扱量が-37.3%となった日本の-1,649便となった。

(図表13)国内線貨物便数(万便)

地域	2019年	2020年	増減率
欧州	1.80	1.97	9.6%
アジア・太平洋	5.06	3.63	-28.2%
北米	51.25	52.41	2.3%
中南米	0.28	0.57	106.6%
中東	0.11	0.07	-39.1%
アフリカ	0.19	0.14	-28.1%
世界計	58.68	58.78	0.2%

(出典：ICAO)

国内線旅客便座席数は2019年33.5億席が21.6億席と-11.9億席(-35.5%)の減席となった。対前年最大減席数はアジア・太平洋で-4.6億席、次いで北米の-4.2億席となり、この2地域で世界の74.3%を占めた。最大減便率はアフリカで-50.0%となり、最小減少率はアジア・太平洋で-31.9%となった。(図表14)

(図表14)地域別年間国内線座席数(億席)

地域	2019年	2020年	増減率
欧州	3.5	2.1	-40.3%
アジア・太平洋	14.4	9.8	-31.9%
北米	12.2	8.0	-34.7%
中南米	2.6	1.3	-48.3%
中東	0.4	0.2	-46.9%
アフリカ	0.4	0.2	-50.0%
世界計	33.5	21.6	-35.5%

(出典：ICAO)

国内線旅客便座席数は2月は他の地域は座席数が伸びる中、アジア・太平洋は-33.2%と減席したため、世界計で-9.1%となった。4月・5月には-70%を越す減少となり、特に中南米・中東・アフリカでは-90%を越す減少率となり、欧州も5月に-90.0%の減少率となった。10月に

は-20%台まで回復し、12月には-24.3%となった。(図表7)

国内線1便当たりの座席数は、全世界で2019年104.9席から2020年87.4席と-17.4席の減席となった。最大減席数は中南米で-21.3席となり、最小減席数はアジア・太平洋で-6.1席となった。(図表8) 1月から中南米・アフリカ以外の地域では減席が始まっていたが、世界計で4月5月は-30席台、6月・7月は-20席台、8月以降は-10席台の減席で推移した。

国内線旅客数は全世界で2019年26.4億人から2020年13.1億人と、-13.2億人(-50.2%)の減少となった。対前年最大減少率はアフリカで-62.8%、最小減少率はアジア・太平洋で-44.5%となった。減少数はアジア・太平洋は-5.3億人、北米は-4.8億人となり、この2地域で世界の減少数の76.3%を占めた。(図表15)

(図表15) 地域別年間国内線旅客数(億人)

地域	2019年	2020年	増減率
欧州	3.0	1.6	-47.6%
アジア・太平洋	11.8	6.6	-44.5%
北米	8.4	3.6	-57.4%
中南米	2.3	1.1	-52.4%
中東	0.4	0.2	-61.4%
アフリカ	0.4	0.2	-62.8%
世界計	26.4	13.1	-50.2%

(出典: ICAO)

国内線旅客数は、4月が2020年の対前年同月で最大減少率の-87.2%となった。他の地域が-90%を越す中、アジア・太平洋は-79.0%と最小減少率であった。2月は-10%台、4月・5月は-80%台、6月は-70%台、7月・8月は-50%台、9月以降は-40%台で推移した。

国内線旅客収入は2019年2384.8億米ドルから2020年は1180.1億米ドルと-1204.7億米ドルの減収となった。対前年最大減少率はアフリカの-62.8%となり、最小減少率はアジア・太平洋で-42.1%となった。北米で-5694.4億米ドル、

アジアで-3705.3億米ドルの減収となり、2地域で世界の減収の78.0%を占めた。

(図表16) 地域別年間国内線旅客収入(億ドル)

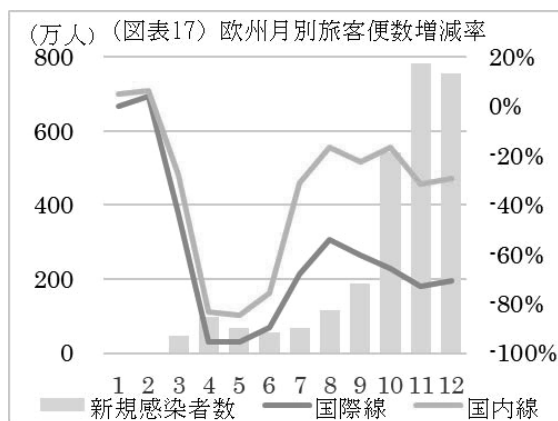
地域	2019年	2020年	増減率
欧州	250.0	130.9	-47.6%
アジア・太平洋	880.2	509.6	-42.1%
北米	991.8	422.3	-57.4%
中南米	187.9	88.9	-52.7%
中東	37.8	14.6	-61.3%
アフリカ	37.2	13.8	-62.8%
世界計	2384.8	1180.1	-50.5%

(出典: ICAO)

### 3. 欧州

#### 1) 国際線旅客便

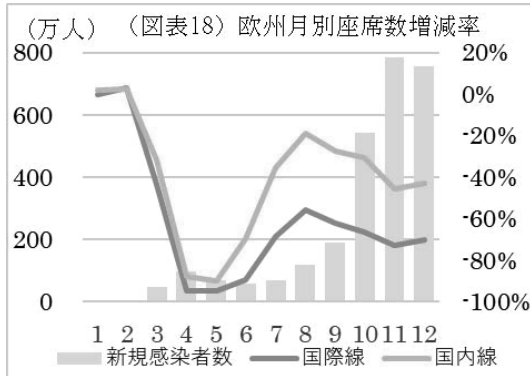
国際線旅客便数は欧州全体では全ての国で減便となり、2019年に629.2万便から2020年には239.5万便と-389.7万便(-61.9%)の減便となり、世界の減便の47.3%を占めた。対前年同月比で、3月に-43.4%、4月5月の両月はピークの-95.3%の減便となった。(図表17)



(出典: ICAO・WHO)

最大減便数は英国で81.7万便から30.9万便と-50.7万便の減便となり、次いでドイツで76.4万便から29.9万便と-46.5万便の減便となった。最大減率はジョージアで1.8万便から0.4万便の-76.9%の減便となった。

国際線座席数は2019年10.7億席から2020年には4.0億席と-6.7億席(-62.5%)の減席となり、世界の減席の44.3%を占めた。対前年同月比で3月が-43.4%の減席となり、4月と5月は-95%前後とピークとなり、8月に-55.8%まで回復したものの、9月・10月-60%台、11月・12月は70%台で推移した。(図表18)



(出典：ICAO・WHO)

最大減席数は英国で1億5111万席から5768万席と、-9343万席(-61.8%)の減席となった。次いでドイツの1億2989万席から4962万席と-8027万席の減席であった。最大減席率はジョージアで293万席から67万席と-77.2%となった。最小減席率はジブラルタルで31万席から18万席と-42.9%となった。

#### 2) 国内線旅客便

国内線旅客便数は、欧州全体では2019年261.8万便から2020年には173.8万便と、-88万便(-33.6%)の減便となったが、16カ国では増便となった。対前年同月比では、3月に-28.1%と減便が始まり、4月には-83.4%、5月には-84.7%の減便となった。7月以降は上昇下降を繰り返し推移し、12月には-29.3%となった。(図表17)

最大減便数はトルコで、28.0万便から14.9万便と-13.1万便の減便、次いでドイツで26.3万便から14.0万便と-12.4万便の減便となった。最大減便率はアゼルバイジャンで1,133便から414便(-63.5%)の減便となった。

主要国が-40%超の減少となる中、ロシアは53.1万便から44.7万便と-14.7%にとどまった。またノルウェーも-11.9%にとどまった。

最大増便はオランダとなり、5,567便から8,998便と+3,431便増便となった、最大増便率はリトアニアとなり、327便から716便と+119.0%の増便となった。

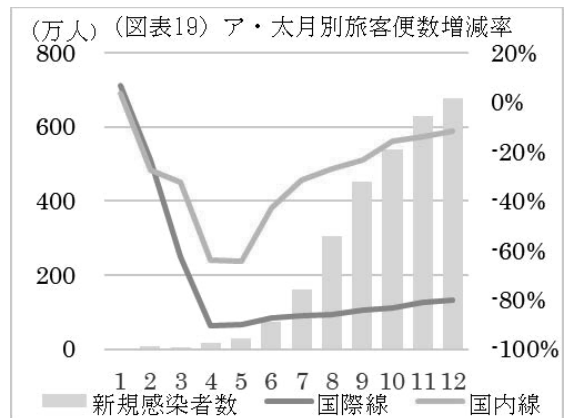
国内線座席数は、欧州全体では国内線座席数は2019年3.5億席が2020年には2.1億席と、-1.4億席(-40.3%)の減席となる中、16カ国が増席となった。対前年同月比で3月が-31.9%となり、ピークの5月には-90.0%となった。6月から回復し、8月は-19.1%まで回復したが、9月からまた下降し、12月は-40.3%となった。(図表18) 最大減席数は、トルコで2019年4799万席から2020年2385万席と-2413万席もの減席となった。次いでドイツの3462万席から1426万席と-2036万席の減席となった。最大増加数はチェコで、6.9万席から13.5万席と+6.5万席増席した。

欧州で最大の座席数ロシアは、8083万席から6827万席と-1256万便(-15.5%)に留まった。

#### 4. アジア・太平洋

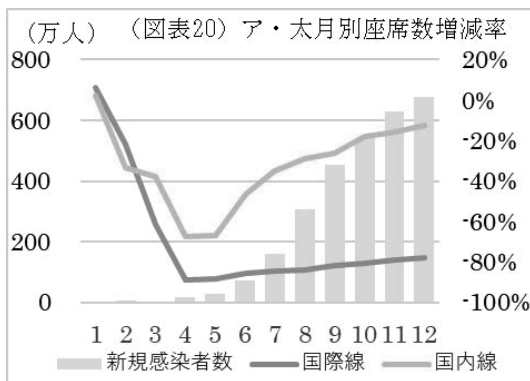
##### 1) 国際線旅客便

国際線旅客便は、2019年に291.9万便から2020年に84.7万便と-207万便(-71.0%)の減便となった。対前年同月比で2月から減便となり、



(出典：ICAO・WHO)

3月に-62.6%の減便、4月がピークの-90.5%となり、5月から12月までは-80%台の減便で推移した。(図表19) 最大の減便数は中国で、2019年58.3万便から2020年15.4万便と-42.9万便(-73.5%)の減便、次いで日本で29.0万便から8.4万便の20.6万便(-71.0%)の減便となった。国際線座席数は2019年6.4億席から2020年から2.0億席と-4.4億席(-69.2%)の減席となり、世界の減席数の29.3%を占めた。(図表20) 対前年同月比で2月に-21.8%の減席となり、4月がピークの-88.8%の減席となった。-80台の減席は10月まで続き、11月には-70%台となり、12月には-62.5%まで回復した。



(出典：ICAO・WHO)

最大の減席数は中国の2019年1億2746万席から2020年3743万席で、-9003万席(-70.6%)の減席となった。次いで日本の6630万席から2074万席で-4556万席(-68.7%)の減席となった。

## 2) 国内線旅客便

国内線便は2019年に978.3万便から2020年694.4万便と、-283.9万便(-29.0%)の減便となり、世界の減便の38.7%を占めた。一方、ニュージーランドなど8カ国では増便となった。対前年同月比で、2月に-27.4%となり、4月と5月には-64%の減便となった。その後回復し、12月には-11.5%にまで回復した。(図表19) 最大減便数は中国で、2019年436.9万便から2020年337.0万便の-99.9万便となったが、-22.9%の減便率に留まった。次いでインドで96.7万便から50.3万便と-46.4万便の減便とな

った。日本は豪州に続き、4番目に多く、84.6万便から58.2万便と-26.4万便(-31.2%)の減便となった。最大増便数はニュージーランドで、41.6万便から42.0万便と+0.4万便の増便となった。

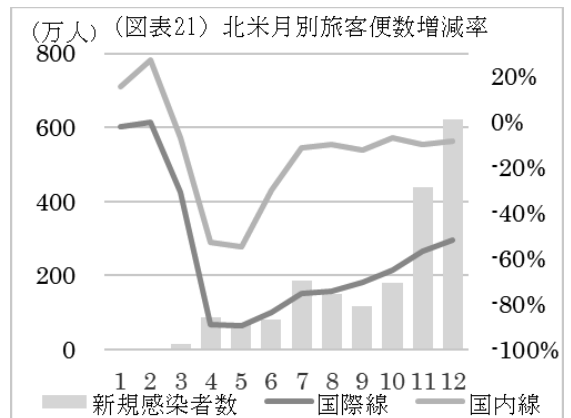
国内線座席数は2019年14.4億席から9.8億席と-4.6億席(-31.9%)の減席となり、世界の38.6%を占めた。対前年同月比で、2月に-33.2%となり、ピークの4月には-67.6%となり、5月からは毎月回復傾向となり、12月には-12.4%となった。(図表20)

最大減席数は中国で、7億2049万席から5億5690万席と-1億6359万席(-22.7%)の減席となり、アジア・太平洋の減席の35.7%を占めた。次いでインドで、1億5693万席から8059万席と-7634万席の減席となった。3位は日本で、1億4578万席から9278万席と-5300万席の減席となった。

## 5. 北米

### 1) 国際線旅客便

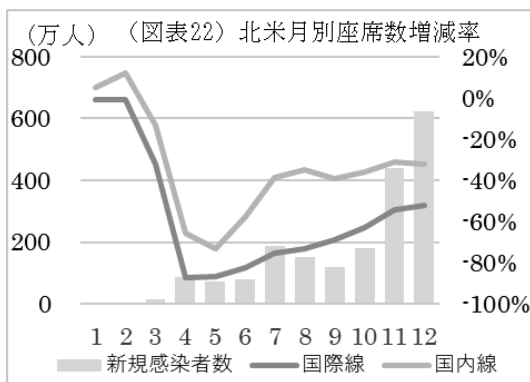
国際線旅客便は、北米では2019年に130.4万便から2020年には54.3万便と-76万便(-58.3%)の減便となった。対前年同月で3月に-31.0%の減便、4月～6月まで-80%台にまで落ち込み、ピークは5月の-89.3%まで落ち込んだ。7月～9月が-70%台となり、12月に-51.7%までは回復した。(図表21)



(出典：ICAO・WHO)

米国は 97.5 万便から 43.6 万便と -53.9 万便 (-55.3%) の減便、カナダは 32.3 万便から 10.5 万便と 21.7 万便 (-67.5%) の減便となった。

国際線座席数は 2019 年 2.1 億席から 2020 年 0.9 億席と -1.2 億席 (-57.5%) の減席となった。対前年同月比で、3 月に -32.0% の減席、4 月には -87.5% の減席となった。5 月からは徐々に回復し始め、12 月には -51.9% まで回復した。(図表 22) 米国は 1 億 6848 万席から 7511 万席と -9337 万席 (-55.4%) の減席となった。カナダは 4373 万席から 1524 万席と -2849 万席 (-65.2%) の減席となった。



(出典：ICAO・WHO)

## 2) 国内線旅客便

国内線便数は 2019 年 1699 万便から 2020 年 1453 万便と -247 万便 (-14.5%) の減便となり、世界の減便の 33.7% を占めた。対前年同月比で、3 月の -6.9% から減便が始まり、5 月の -54.8% がピークで減便が減少し、10 月からはマイナス 1 桁台で推移した。(図表 21) 米国は 1578.6 万便から 1379.8 万便と -198.9 万便 (-19.7%) の減便、カナダは 120.8 万便から 72.8 万便と -48.0 万便 (-39.7%) の減便率となった。

国内線座席数は 2019 年 12.2 億席から 2020 年 8.0 億席と -4.2 億席 (-34.7%) の減席となり、世界の減席の 35.6% を占めた。対前年同月比で、3 月に -13.2% の減席となり、5 月には -73.4% となったが、徐々に回復し、12 月には -32.0% となった。(図表 22) 米国は 11 億 4017 万席から 7 億 5560 万席と -3 億 84578 万席 (-33.7%) の減席、

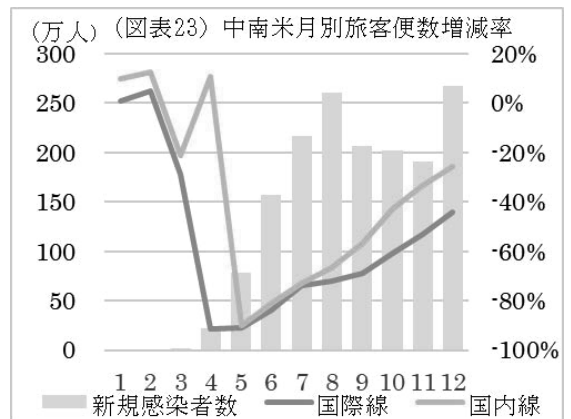
カナダは 7834 万席から 3992 万席の -3843 万席 (-49.1%) の減席となった。

## 6. 中南米

### 1) 国際線旅客便

国際線旅客便数は、中南米では 2019 年に 108.6 万便から 2020 年には 49.9 万便と、-58.7 万便 (-54.1%) の減便となった。対前年同月で 3 月に -28.8% の減便となり、4 月 5 月と -91% にまで落ち込み、11 月に -44% 台にまで回復したが 12 月に再度 -54.0% と下降した。(図表 23) 他国が減少する中、ヴァージン諸島のみが 2.8 万便から 2.9 万便と増加した。

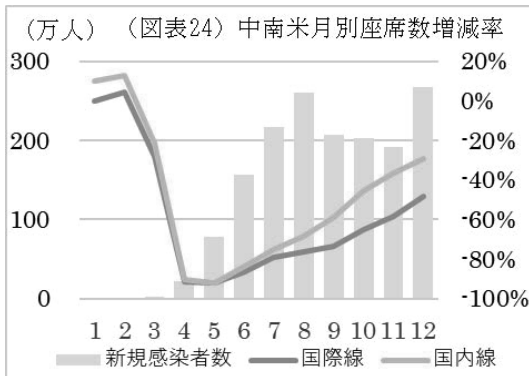
最大減便国はメキシコで、22.0 万便から 12.3 万便の -9.7 万便、次がパナマの 7.3 万便から 2.2 万便の -5.1 万便だった。最大減少率はパラグアイの -69.9%、次がウルグアイの -67.9% となった。最小減便国は、ヴァージン諸島で、1.6 万便から 1.4 万便の -9.8% で、次がアンギアの -11.8% であった。



(出典：ICAO・WHO)

国際線座席数は 2019 年 1 億 5631 万席から 2020 年に 6789 万席と、-8842 万席 (-56.6%) の減席となった。5 月がピークで -92.0% となったが、徐々に回復し、12 月には -48.6% まで回復した。(図表 24) 最大減席国はメキシコで、3182 万席から 1699 万席と -1482 万席 (-46.6%) となった。最大減席率はベネズエラで、102.6 万席から 21.7 万席と、80.9 万席 (-78.7%) となった。





(出典：ICAO・WHO)

## 2) 国内線旅客便

国内線便数は中南米全体では、15カ国で増便となったが、2019年190.5万便から2020年101.8万便と、88.6万便(-46.5%)の減便となった。3月に-21.1%となったが、4月には+10.9%、5月には-90.1%まで落ち込んだ。徐々に回復し、12月には-33.3%にまで回復した。(図表23) 最大減便国はブラジルで、74.7万便から39.1万便と-35.6万便(47.7%)の減便となった。最大増便国はプエルトリコで、2.2万便から2.7万便と+0.5万便(+25.23%)増便となった。

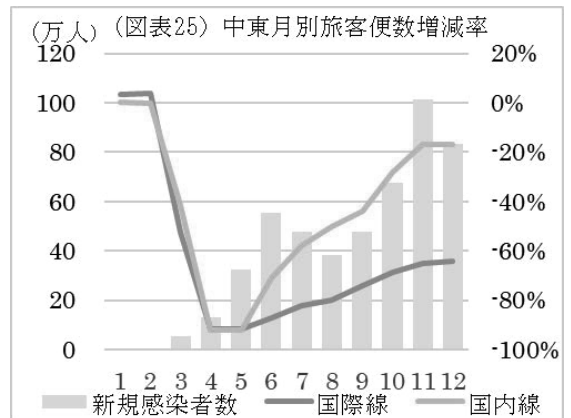
国内線座席数は2019年2.6億席から2020年1.3億席と、-1.2億席(-48.3%)の減席となった。5月がピークで-92%の減席となったが、徐々に減少し、12月には-29.65%となった。(図表24) 最大減席国はブラジルで、1億3182万席から5594万席と、-5255万席(-48.4%)の減席となった。最大増席国はプエルトリコで、44.5万席から103.6万席と、+59万席(+132.6%)の増席となった。

## 7. 中東

### 1) 国際線旅客便

国際線については、便数が2019年87.8万便から2020年32.3万便と、-55.6万便(-63.3%)の減便となった。座席数は2019年1億9798万席から2020年7578万席と、-1億2219万席(-61.7%)の減席となった。3月に便数が-52.4%、座席数-49.3%となり、4月がピークで、便数

-91.8%・座席数-91.1%となり、5月は便数-91.4%・座席数-90.6%となった。6月以降は便数・座席数ともに徐々に回復し、12月には便数-64.2%、座席数-62.0%となった。(図表25・26) 最大減便国・減席国ともにアラブ首長国連邦となり、便数は28.7万便から12.1万便と-16.5万便(-57.5%)の減便となり、座席数は7617万席から3165万席と-4452万席(-73.0%)となった。最大減便率はオマーンの5.5万便から1.4万便の-73.0%で、最小減便率はカタールの10.8万便から5.8万便の-46.8%となった。最大減席率はイラクの446.9万席119.8万席の-73.2%で、最小減席率はカタールの2781万席から1598万席の-42.5%となった。



(出典：ICAO・WHO)



(出典：ICAO・WHO)

### 2) 国内線旅客便

国内線については、便数が2019年26.9万便から2020年15.2万便と、-11.7万便(-43.5%)

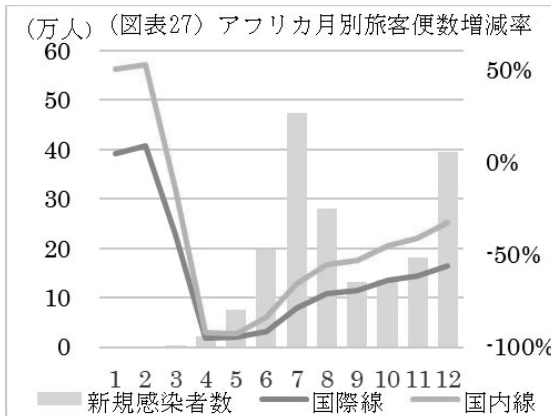
の減便となったが、4カ国では増便となった。座席数は4180万席から2221万席で-1960万席(-46.9%)の減席となったが、2カ国では増席となった。3月に便数-39.1%・座席数-21.5%となり、4月5月は便数-92%、座席数-95%となったが、徐々に回復し、12月には便数-16.7%、座席数-29.2%まで回復した。(図表25・26)

最大減便数・減席数ともにサウジアラビアで、便数は20.5万便から11.0万便と-9.5万便(-46.5%)となり、座席数は3516万席から1831万席と-1685万席(-47.9%)となった。最大増便はカタールで1,140便から3,764便と+2,624便(+230.2%)、最大増席はバーレーンの462便から2,375便と+1,913便(+414.7%)となった。

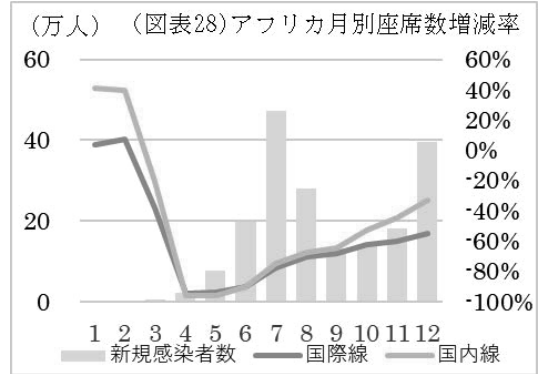
## 8. アフリカ

### 1) 国際線旅客便

国際線については、便数が2019年60.8万便から2020年24.5万便と-36.3万便(-59.7%)の減便となった。座席数は1.2億席から4734万席と-6774万席(-58.9%)の減席となった。3月に便数が-52.4%・座席数-20.3%となり、4月～6月は90%台となった。7月以降は便数・座席数ともに徐々に回復し、12月には便数-56.1%・座席数-32.9%となった。(図表27・28) 最大減便・減席数はカナリア諸島で、便数10.2万便から4.6万便と-5.5万便(-54.3%)、座席数は1870万席から828万席と-1042万席(-55.7%)となった。



(出典：ICAO・WHO)



(出典：ICAO・WHO)

### 2) 国内線旅客便

国内線については、便数が2019年33.4万便から18.9万便と-14.5万便(-43.4%)の減便となった。座席数は3845万席から1923万席と-1922万席(-50.0%)の減席となった。3月に便数-39.1%、座席数-20.3%となり、4月5月は便数、座席数ともに90%台となったが、便数は6月以降、座席数は7月以降徐々に回復し、12月には便数-41.4%、座席数-32.9%まで回復した。(図表27・28)

最大減便・減席も南アフリカで、便数は13.2万便から5.6万便と-7.6万便(-58.7%)の減便となり、座席数は1950万席から805万席と-1145万席(-58.7%)の減席となった。

### 【参考文献】

WHO (<https://covid19.who.int/>)

日本貿易振興機構 (<https://www.jetro.go.jp/>)

出入国管理庁(<https://www.moj.go.jp/isa/>)

UNWTO World Tourism Barometer

ICAO (<https://www.icao.int/>)

IATA (<https://www.iea.org/>)

IEA (<https://www.iea.org/>)

中国民用航空局 (<http://www.caac.gov.cn/>)

国土交通省 (<https://www.mlit.go.jp/>)

US DOT (<https://www.transportation.gov/>)